

万華鏡

甲府商業高校 図書室
令和3年6月
NO. 2

新年度がスタートしました。新しい環境にはもう慣れましたか？
様々な行事を通し仲間と共有する中で、個を意識するのも高校時代です。
そこで、みなさんの心に寄り添い、考えるヒントを
与えてくれるのが一冊の本です。

図書室では新着図書を多数揃えています。みなさんが読書を楽しみ、
学びの場として、利用できる図書室でありたいと思っています。



● 図書室からのお願い

図書室では新型コロナウイルス感染予防対策として、換気や消毒を行い、
密にならないよう配慮しています。

生徒のみなさんには図書室利用時、次のことにご協力をお願いします。

- ① マスクの着用。
- ② 手指の消毒(入口設置)の励行。
- ③ 閲覧席は間隔を空けて使用し、会話は控える。



新着本紹介

『52ヘルツのクジラたち』 町田そのこ／著 中央公論新社

書籍紹介：2021年 本屋大賞

自分の人生を家族に搾取されてきた女性・貴湖と、母に虐待され「ムシ」と呼ばれた少年。
孤独ゆえ愛を欲し、裏切られてきた彼らが出会う時、新たな魂の物語が生まれる。

『ザリガニの鳴くところ』 ディーリア・オーエンズ／著 早川書房

書籍紹介：2021年本屋大賞翻訳小説部門第1位

家族に見捨てられながらも、広大な湿地でたったひとり生きる少女に、ある殺人の容疑が
かかる。みずみずしい自然に抱かれて生きる少女の成長と不審死事件が絡み合い、思いも
よらぬ結末へと物語が動き出す。

『小説8050』 林真理子／著 新潮社

書籍紹介：従順な妻と優秀な娘にめぐまれ、完璧な人生を送っているように見える大澤正樹
には秘密がある。有名中学に合格し、医師を目指していたはずの長男の翔太が、七年間も部屋
に引きこもったままなのだ。夜中に家中を徘徊する黒い影。次は、窓ガラスでなく自分が
壊される——。「引きこもり 100 万人時代」に必読の絶望と再生の物語。

『ぼくたちの家族』 早見和真／著 幻冬舎

書籍紹介：家族の気持ちがバラバラな若菜家。その仲を取り持ってきた母・玲子の脳にガン
が見つかり、父や息子は狼狽しつつも動き出すが…。近くにいながら最悪の事態でも救ってく
れない人って何？ 家族の存在意義を問う傑作長編。

『自分の頭で考える日本の論点』 出口治明／著 幻冬舎

書籍紹介：経済成長は必要か、ネット言論は規制すべきか…。ベンチャー企業の創業者で
あり大学学長である著者が、私達が直面する重要な論点を紹介しながら、自分はどうか判断す
かの思考プロセスを解説。知識と考える力が同時に身につく。

『武田信玄 500 年目の真実』 伊沢元彦／著 宝島社

書籍紹介：武田信玄の足跡を記した「甲陽軍艦」。その信憑性を疑う歴史学界の論調に異を
唱えてきた著者が、「武田幕府構想」「信長の信玄籠絡計画」など、「甲陽軍艦」に記された事
象を取り上げ、戦国最強武将の「実像」を明らかにする。

『ルワンダ中央銀行総裁日記』 服部正也／著 中央公論新社

書籍紹介：ルワンダの中央銀行総裁として、物理的条件の不利に屈せず、あくまで民情に
即した経済改革を遂行した日本人総裁の記録。1994年のルワンダ動乱をめぐる論者等
を加えた増補版。

- ★『感染症』 井上栄著 中央公論新社
- ★『福島モノローク』 いとうせいこう著 河出書房新社
- ★『臨床の砦』 夏川草介著 小学館
- ★『ヒロシマ消えたかぞく』 指田和著 ポプラ社
- ★『論語と算盤』 渋沢栄一著 筑摩書房
- ★『歴史探偵忘れ残りの記』 半藤一利著 文藝春秋
- ★『英語独習法』 今井むつみ著 岩波書店
- ★『わたしのいもうと』 松谷みよ子著 偕成社
- ★『こどもSDGs』 パウンド著 カンゼン
- ★『アクティベーター』 冲方丁著 集英社
- ★『言いかえ図鑑』 大野萌子著 サンマーク出版
- ★『白鳥とコウモリ』 東野圭吾著 幻冬舎
- ★『クララとお日さま』 カズオ・イシグロ著 早川書房

など…

随時リクエスト本 受付中!!